

自己評価報告書(最終報告)

コース等名

自然系コース(数学)

記載責任者

平野 康之

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教員養成の質保証

大学の機能別分化・機能強化が求められる中、本学は教員養成大学として高度専門職業人としての教員を養成することを目標としている。教員養成の質保証のため、専攻・コースではどのような取り組みを行うか、具体的な方策を示してほしい。

1. 目標・計画

(1) 専門的な数学とともに算数・数学の教育について十分に理解し、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことを目指す。そのために各教員は単なる専門的知識を教えるのではなく、学校現場の実践と関連性が保たれている授業を行うことを心がける。
 (2) 担任だけでなく、コースの教員間でコースの学生の勉学・学生生活などの情報を共有し、有機的なつながりを持った指導・教育を行う。
 (3) 各教員は授業やゼミ中などに、折に触れて教育について話をし、専門性だけでなく豊かな人間性を持って教育を行うことが重要であることを学生に理解させる。
 (4) 学生にとって数学の基本的理解に役立つような教員採用試験対策を本年度も行う。
 (5) シラバスに基づき、成績評価基準を学生に説明し、公平性、透明性を持たせる一方、学生の質保証のためにも成績評価は厳格に実施する。また、定期試験では不正行為等が行われないように、これまで以上に慎重を期す。

2. 点検・評価

(1) 専門的な数学、そして算数・数学の教育について十分に理解し、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し学校現場に送り出すことに努力し、各教員は学校現場の実践と関連性が保たれている授業を行うことを心がけた。
 (2) コース会議などで教員間でコースの学生の勉学・学生生活などの情報交換を行ない、有機的なつながりを持った指導・教育を行った。
 (3) 各教員は授業やゼミ中などに、折に触れて教育について話をし、豊かな人間性を持った教育の重要性を説いた。
 (4) 数学の基本的理解に役立つ教員採用試験対策を本年度も行った。
 (5) シラバスに基づき、成績評価基準を学生に説明し、公平性、透明性を持たせた。そして学生の質保証のためにも成績評価は厳格に実施した。定期試験では不正行為等は一切、行われなかった。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

(1) 学生同士が協力しまた互いに競い合う雰囲気を作り出すよう努めるなど、各学生が自ら積極的に学生生活を送れるよう指導を工夫する。
 (2) 各教員が折に触れ、自分の研究の一端や、興味を引かれた事柄を学生にかみ砕いて話すことにより、学生とのコミュニケーションを図ると共に、学生と共に知の集団としての大学の構築を目指す。
 (3) 各自授業改善の取り組みを行う。
 (4) 卒業・修士論文の指導および進路・学生生活に関して、指導教員以外の教員の指導も受けることができるようコースで工夫する。

2. 点検・評価

1. コース会議等で教員が学生の学習・生活状況に関する情報を交換し合い、十分な理解のもと指導が出来るようにした。クラス担当教員・指導教員が中心となり、学生が「教員を目指すという共通の目的意識をもって同じ場所で学んでいる」という自覚もてるように指導を行った。また、教採対策塾においては、学生が互いに協力しながらも競争意識をもって学べるような雰囲気をつくるように努めた。また、希望者に対しては、集団面接、模擬授業等の練習を行い、学生が教員としての自己を確立するための手助けを行った。
 2. 学生が教員の研究室に気軽に訪ねることができる雰囲気をつくるため、各教員が折に触れ学生に学習や研究についての話をした。学生が研究室を訪れた機会には、自分の研究分野、さらに幅広い内容について話をし、学ぶことの素晴らしさを伝えた。これらの活動により、コース各員が学生と共に知の集団としての大学の構築が出来るように努めた。
 3. コース各員が授業改善の取り組みを行い、内容・指導方法の工夫に努めた。具体的には、授業内容の体系化を図るとともに、学生が主体的に参加できるように、毎授業時間の一部を学生の主体的発表に当てた。また、学期の途中で授業の理解度を問うアンケートや小テストを実施し、結果に応じて追加説明等を行い、学生の理解の深化を図った。
 4. コースの各員が日常的に学生とのコミュニケーションを図った。学部生・大学院生とも卒業・修士論文の指導及び進路・学習生活に関して、自分の指導教員だけではなく、他の教員のもとに相談に訪れた。また、合同ゼミを実施し、指導教員以外の指導が受けられる機会を設けた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- (1) 研究活動が大学教員としての使命であるという共通の意識を堅持し、それぞれの研究を互いに尊重し、出来るだけ公平に雑事に拘束されず研究活動が推進できるよう協力体制をとる。
- (2) 科学研究費補助金の申請は全員が行い、出来るだけ多くの採用が得られるよう努力する。

2. 点検・評価

1. それぞれの研究を互いに尊重し、業務を出来るだけ公平に分担して助け合うことにより、時間や雑務に拘束されずに研究活動が推進できることを目指した。
2. 平成25年度の科学研究費補助金の申請は、継続の者を除く全員が行った。平成24年度は、研究代表者・研究分担者として5件を獲得した。
3. コースで平成24年度学長裁量経費(プロジェクト経費)を申請し、コースの全教員で、質の高い教員養成についての研究を行なった。
4. コースの主催で6月18日に東アジア国際交流セミナーを開催した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- (1) 各自委員として学内の各種会議に出席し、職務を遂行する。授業、出張等で出席が不可能な場合にはコース構成員で協力し、代理としてその役目を助ける。

2. 点検・評価

1. 各自、委員として学内の各種会議に出席し、職務を果たした。授業、出張等で出席が不可能な場合にはコース構成員で協力し、代理としてその役目を助けた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- (1) 附属小・中学校の算数・数学教員からメールによる質問、相談を受け付け、それぞれ専門の立場から回答、アドバイスを行う。(附属学校)
- (2) 上記活動が、活発かつスムーズに行われるよう、コース教員と附属学校算数・数学教員との教育懇談会を行い自由な意見を交換する。(附属学校)
- (3) 現職数学教員も多く会員となっている学校数学研究会を学内で開催し、また機関誌を発行することにより、数学教育における問題提起・解決のための討議の場を提供する。(社会連携)
- (4) 教員支援講師・アドバイザー等の機会において、学校現場に実際の数学の楽しさや面白さを伝え、教師の資質の向上を図ると共に、生徒の数学離れ、学力低下を少しでも食い止める努力をする。(社会連携)
- (5) 小・中学生を対象とする「数学教室」を開催し、さらには「徳島わくわく算数教室」については開催の要請があればそれを実施し、また鳴門市「子どものまちフェスティバル」が開催されることになれば、算数紹介コーナーを設けることにより、子供たちに数学に対する啓蒙や興味の惹起を行う。(社会連携)
- (6) JICA研修をコースで協力して行う。(国際協力)

2. 点検・評価

1. 附属小・中学校の算数・数学教員からメールによる質問、相談を受け付け、それぞれ専門の立場から回答、アドバイスを行った。また、今年度も附属中学校が文部科学省の指定を受けて行っている研究活動にコースの全教員が協力し、数学専門・数学教育双方の視点で助言を与えた。(附属学校)
2. 附属小・中学校との連携活動が、活発かつスムーズに行われるよう、コース教員と附属学校算数・数学教員との教育懇談会を行い、自由な意見交換を行った。(附属学校)
3. 「平成24年度 附属中学校の生徒を対象にした授業支援」に係る「附属中学校 第2学年 数学科選択授業」(4回、8時間)を附属中学からの要請によりコースの4名の教員が担当した。(附属学校)
4. 学校数学研究会を8月25日に学内で開催した。またその機関誌を2回発行した。それらの活動により、数学教育における問題提起・解決のための討議の場を提供した。(社会連携)
5. コース教員全員が教員支援講師・アドバイザーに登録し、前期は1名、後期は4名が教員支援講師・アドバイザー等事業の活動を行った。また、学校現場や教員研修会で講演や助言(計14回)を行い、数学の楽しさや面白さを伝え、教員の資質の向上を図ると共に、生徒の数学離れ、学力低下を少しでも食い止める努力を行った。(社会連携)
6. 小・中学生を対象とする「数学教室」を10月6日に開催した。また、鳴門市「子どものまちフェスティバル」が10月21日に開催された際には算数紹介コーナーを設け、子どもたちに数学に対する啓蒙や興味の惹起を行った。さらに、徳島県教育会が7月29日に開催した「徳島 わくわく算数教室」の企画・実施にコースの全教員が協力し、地域の教育活動に貢献した。(社会連携)
7. コースの教員1名が10年研修、教員2名が免許更新講習を行なった。(社会連携)
8. JICAの委託事業である平成24年度地域別研修「大洋州地域における算数・数学教育に関する教授法の改善に向けた自立的研修の普及2012」をコースの全教員が協力して実施した。(国際協力)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

1. 大学院において、自然系全体の定員に近い16名の入学者を確保し、コースとしての目標を大きく上回った。
2. 大多数の卒業生・修了生を教職に就かせることが出来た。
3. 徳島県教育会からの依頼を受け、徳島県教育会が7月29日に開催した「徳島わくわく算数教室」の企画・実施にコースの全教員が協力し、地域との連携を深めた。
4. 1件のJICA研修団をコースで受け入れた。
5. コースの主催で6月18日に東アジア国際交流セミナーを開催した。
6. 附属中学校でのLFTの授業(1件)を担当した。
7. 「附属中学校 第2学年 数学科選択授業」(4回、8時間)を附属中学からの要請によりコースの4名の教員が担当した。
8. コースで平成24年度学長裁量経費(プロジェクト経費)を申請し、コースの全教員で、質の高い教員養成についての研究を行なった。
9. コースの教員1名が10年研修、教員2名が免許更新講習を行なった。